

■ 提 言 ■

第 48 回日本小児感染症学会総会・学術集会に向けて

第 48 回日本小児感染症学会総会・学術集会会長/川崎医科大学小児科学講座 尾内 一 信

第 48 回日本小児感染症学会総会・学術集会を本年 11 月 19～20 日に岡山市の岡山コンベンションセンター「ママカリフォーラム」にて開催させていただきます。テーマは、「小児感染症の研究と診療の連携—みんなで考えよう。人材育成と多職種連携—」としました。病気の子どもたちを中心として、小児の感染症疾患について研究と診療がうまくかみ合えば、子どもたちの感染症疾患について予防、診断と治療がさらに充実するのではないかと考えています。また、欧米に比べると各職種の専門家の厚みが日本では乏しく、特に感染症の分野ではさらなる人材育成と多職種連携が必要だと考えています。今後、未来を担う子どもたちの健康を増進するために、今回の学術集会が小児感染症領域のさらなる発展を遂げる一助になればよいなと思っております。

プログラムについては、プログラム委員長の岡山大学小児医科学教授の塚原宏一先生をはじめ、本学会を代表するプログラム委員の先生方にすばらしい企画を考えていただいています。本学会は、感染症と免疫の融合が本流と考えています。細菌、ウイルス、ワクチン、免疫に関する各分野がバランスよくとりあげられるように、企画をお願いしていただいています。特別講演には、自然免疫研究の第一人者である大阪大学免疫学フロンティア研究センターの審良静男先生をお招きして

おります。旧知の時計遺伝子研究の第一人者である京都大学の岡村均先生や、臨床薬理学の第一人者であるトロント大学の伊藤真也先生など、4 人の演者に招聘講演をお願いしております。伊藤先生を含めて、海外から 6 人の著名な研究者にご講演のお願いをしております。9 つの教育講演や 6 つのシンポジウムでは、数多くの小児感染症のトピックスをとりあげております。特にシンポジウムでは、開催地の岡山で病態が解明された *Yersinia pseudotuberculosis* 感染症をとりあげ、佐藤幸一郎先生をはじめ当時のキーパーソンに病態解明の経緯をうかがいたいと思います。若手研究者が新しい疾患の病態を解明するきっかけになればと考えています。また来年度から計画されている小児感染症認定医、認定指導医（専門医）制度についても、会員のための制度ですから、ぜひともいろいろ議論していただければと思います。

会場の岡山コンベンションセンターは岡山駅と隣接しており、アクセスにはとても便利です。会場近隣には、日本 3 大名園の一つである後楽園、岡山城や明治・大正時代の懐かしい町並みがある倉敷美観地区もあります。大会事務局一同、オール岡山で皆様に楽しんでいただこうと準備を進めております。皆様、こぞって参加して楽しんでいただけたらと思います。

* * *